令和6年度 前期 常設展

生誕 140 年記念

三猿（サンエン）文庫の中の

山村暮鳥（ヤマムラボチョウ）と竹久夢二（タケヒサユメジ）

いわき市立いわき総合図書館

いわき市平字田町 120 ラトブ 4・5 階

TEL 0246-22-5552

http://library.city.iwaki.fukushima.jp

はじめに

三猿文庫は、諸橋元三郎氏が家業の「釜屋」の会計を担当するかたわらで収集した資料群です。多分野にわたる資料を一般に公開し、地域の文化活動を支えました。

今回の常設展では、今年で共に生誕 140 年を迎えた、詩人・キリスト教伝道師の山村暮鳥と、画家・詩人・デザイナーの竹久夢二をテーマに取り上げ、三猿文庫の貴重な資料の中から、出版当時の二人の作品を展示し、あわせて、いわき地域での足跡をたどります。

常設展をとおして、地域の文化遺産ともいうべき三猿文庫について知っていただくきっかけとなれば幸いです。

いわき総合図書館

三猿文庫とは

三猿文庫は、諸橋元三郎氏［明治 30(1897)年―平成元(1989)年］が、家業の「釜屋」の会計を担当するかたわらで収集・公開した資料群です。

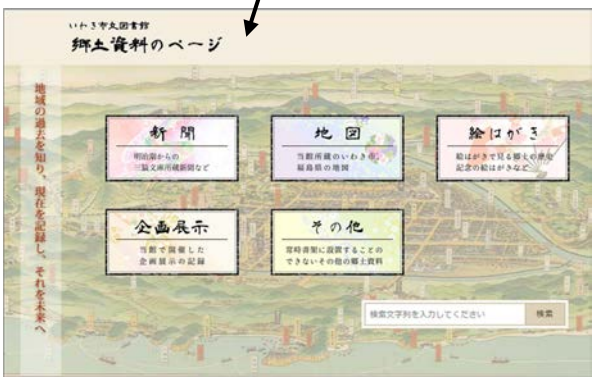
三猿文庫の資料は、いわき地域の新聞や郷土出版物、全国の近代雑誌創刊号、宮武外骨・山村暮鳥・竹久夢二の著作物等、多分野にわたり、文庫名は、「見ざる・聞かざる・言わざるの三猿の教えは、逆説的には大いに見分をひろめ、知識を涵養すべきであるという哲理」であることに由来しています。

諸橋氏の死後、三猿文庫は、平成 12（2000）年 1 月にいわき市に寄託され、平成 14（2002）年 5 月には寄贈となり、草野心平記念文学館（市文化課 所管）で保管されていました。その後、平成 16（2004）年度から図書館において地域新聞の電子化事業を開始し、平成 19（2007）年度のいわき総合図書館の開館の際に、図書館に所管替えされました。

現在は、いわき総合図書館 5 階のいわき資料フロアに三猿文庫コーナーを設置し、いわき市立図書館ホームページ「郷土資料のページ」で、デジタル化した三猿文庫資料の一部を公開しています。

三猿文庫内部の様子
平成 4（1992）年 10 月 撮影

いわき市立図書館
ホームページ



いわき市立草野心平
記念文学館 提供

山村 暮鳥（やまむら ぼちょう）　詩人・キリスト教伝道師

明治 17（1884）年 1 月 10 日、群馬県西群馬郡棟高村（現 群馬県高崎市）の農家に生まれました。本名、土田（旧姓志村、のちに木暮）八九十（はくじゅう）。複雑な家庭事情から、辛い幼少期を過ごしました。

尋常小学校の代用教員等を経て聖三一神学校に入学し、在学中から木暮流星の名前で雑誌に短歌を発表していましたが、次第に詩を作るようになりました。

卒業後は、日本聖公会の伝道師として秋田県・宮城県・茨城県の教会で伝道を行い、大正元（1912）年に、平町（現 いわき市平）の日本聖公会平講義所に転任となりました。

大正 7（1918）年、再び茨城県水戸市に転任となるまで、詩集をはじめとする著作の出版、文芸誌の創刊、萩原朔太郎や室生犀星らとの「人魚詩社」の創設等を行っています。

その後、結核を患い、大正 8（1919）年には伝道師を休職、後に失職します。療養しつつ、詩・童謡・童話等を書き続けますが、病状が悪化し、大正 13（1924）年 12 月 8 日、茨城県大洗町で死去しました。

国立国会図書館 電子展示会
「近代人の肖像」より

竹久 夢二（たけひさ ゆめじ）　画家・詩人・デザイナー

明治 17（1884）年 9 月 16 日、岡山県邑久郡本庄村（現 瀬戸内市邑久町）の酒屋に生まれました。本名、竹久茂次郎（もじろう）。

明治 35（1902）年、早稲田実業学校に入学し、新聞や雑誌にコマ絵等の投書を始めます。その後、独特の美人画のスタイル「夢二式美人」を確立し、人気作家となりました。

画集をはじめとして、詩、短歌、童謡等の文学作品も発表しており、それらをまとめた、多数の書籍も出版しています。また、雑誌の表紙や書籍・楽譜の装幀、便箋や千代紙や浴衣といったの日用品のデザイン等も手掛けています。

夢二は全国各地を旅し、福島県にも多く訪れました。晩年には、アメリカやヨーロッパ各国、台湾を訪れています。

その後、結核を患って入院し、昭和 9（1934）年 9 月 1 日に死去しました。

明治時代

山村暮鳥 明治時代略年表

明治	17（1884）	0 歳	1/10	群馬県西群馬郡棟高村（現 高崎市）に生まれる。両親が入籍していなかったため、母方の祖父の子志村八九十として届けられた。
	22（1889）	5 歳	5/1	実父の養子に入り、木暮八九十となる。
	23（1890）	6 歳	4 月	元総社尋常小学校に入学。

24 (1891)	7 歳	―	祖父の死がきっかけで、両親と共に、母の実家 志村家に戻り、堤ヶ丘尋常小学校に転校。
27 (1894)	10 歳	4 月	高等小学校に進学。翌年、中退。
32 (1899)	15 歳	10 月	堤ヶ丘尋常小学校代用教員となる。
34 (1901)	17 歳	1 月	前橋聖マッテア教会の英語夜学校に通う。
		2 月	堤ヶ丘尋常小学校准訓導となる。
		2 月	日本聖公会高崎講義所の日曜学校でも英会話を学ぶ。
35 (1902)	18 歳	6/6	前橋聖マッテア教会で洗礼を受ける。
		8 月 下旬	宣教師ミス・ウォールの転任に従い、青森市に移る。
36 (1903)	19 歳	4 月	ミス・ウォールの尽力で聖マッテア伝道学校に入学。 後に、私立専門学校聖三一神学校に編入学。
37 (1904)	20 歳	―	「木暮流星」の筆名で短歌を発表。
38 (1905)	21 歳	4 月	北海道旭川連隊に入隊。
		7 月	第 7 師団補充兵として満州に渡る。
39 (1906)	22 歳	2 月	満州より帰国。
		9 月	聖三一神学校に復学。
41 (1908)	24 歳	6/29	聖三一神学校を卒業。
		8 月	秋田聖救主教会（秋田県）に伝道師として着任。
		10 月	横手講義所（秋田県）に転任。
42 (1909)	25 歳	2 月 上旬	日本聖公会湯沢講義所（秋田県）に転任。
		6 月	雑誌『北斗』創刊。二号から暮鳥が編集を務める。
		12/14	日本聖公会仙台基督教会（宮城県）に転任。
43 (1910)	26 歳	1 月	山村暮鳥の筆名を初めて用いる。
		8 月	パンフレット詩集『LA BONNE CHANSON』出版。
		11/18	上級牧師と衝突し、東京諸聖徒教会に転籍。
44 (1911)	27 歳	6 月	水戸聖公会（茨城県）に転任。
		11 月	常陸太田講義所（茨城県）に転任。

竹久夢二 明治時代略年表

明治	17 (1884)	0 歳	9/16	岡山県邑久郡本庄村（現 瀬戸内市）に生まれる。
	24 (1891)	7 歳	4 月	明徳小学校に入学。
	28 (1895)	11 歳	4 月	邑久高等小学校に入学。
	32 (1899)	15 歳	4 月	神戸中学校に入学。8 カ月で中退。
			12 月	一家で福岡県遠賀郡八幡村（現 北九州市）に転居。
	34 (1901)	17 歳	夏	家出して上京。

明治	35（1902）	18 歳	9 月	早稲田実業学校に入学。
	38（1905）	21 歳	4 月	早稲田実業学校専攻科に進学。
			—	雑誌『中学世界』に投書したコマ絵「筒井筒」が第一賞に入選。 初めて「夢二」の名前が使用される。
			7 月	早稲田実業学校専攻科を中退。
	40（1907）	18 歳	1 月	前年、絵はがき店「つるや」で出会った岸たまき（戸籍名 他万喜）と結婚。
			4 月	読売新聞社に入社。
			6 月	『読売新聞』に紀行文「涼しき土地」を連載。
	41（1908）	24 歳	2/27	長男 虹之助生まれる。
	42（1909）	25 歳	5/3	たまきと協議離婚。
			12/15	詩・画集『夢二画集 春の巻』（洛陽堂）出版。
	43（1910）	26 歳	1 月	再び、たまきと同棲。
			4/19	短歌・画集『夢二画集 夏の巻』（洛陽堂）出版。
			5/20	短歌・詩・画集『夢二画集 花の巻』（洛陽堂）出版。
			7/22	紀行文・画集『夢二画集 旅の巻』（洛陽堂）出版。
			10/23	詩・画集『夢二画集 秋の巻』（洛陽堂）出版。
			11/22	画集『夢二画集 冬の巻』（洛陽堂）出版。
	44（1911）	27 歳	3/26	童謡集『絵ものがたり 京人形』（洛陽堂）出版。
			5/1	次男 不二彦生まれる。
			夏	再び、たまきと別居。
			9 月	絵はがき「月刊夢二エハガキ」発行開始。 以降、毎月刊行され、102 集まで継続される。
			11/21	詩・画集『夢二画集 都会の巻』（洛陽堂）出版。
	45（大正 1・1912）	28 歳	4/24	短編集『桜さく島 見知らぬ世界』（洛陽堂）出版。
			6/1	雑誌『少女』に「宵待草」の原詩が発表される。
			秋頃	たまきの許へ戻る。

童謡集
『絵ものがたり 京人形』
明治 44（1911）年 3 月
［初版］

詩・画集
『夢二画集 都会の巻』
明治 44（1911）年 11 月
［初版］

夢二といわき

竹久夢二は、少なくとも二度、いわき地域を訪れています。

一度目は、明治 40（1907）年 6 月 1 日から『読売新聞』に連載された、紀行文「涼しき土地」の取材のためでした。いわき地域へは、宮城県松島町を訪れた帰りに立ち寄っています。

「涼しき土地」には、久之浜駅で汽車を降り、人力車で四倉へ行き、再度、汽車に乗り、湯本温泉の松柏館に宿泊、翌日、勿来関を訪れた様子がつづられています。

二度目は、大正 10（1921）年でした。長期旅行のため福島県を訪れた際、湯本温泉にも立ち寄り、山形屋に宿泊しています。夢二は、その際に山形屋特製の黄八丈（きはちじょう）（八丈島伝統の絹織物）の丹前（たんぜん）（防寒用の和服）を気に入り、後日、譲り受けたというエピソードが残っています。

久之浜

久之浜にて汽車を降る。日はもう暮合いである。クリーム色の路が、うねうねと白い苗代田の中を通っている。黄色の目のさめるような稲の端葉が夕風にそよぐ。十町ばかりゆくと、路は薄茶色の土蔵と、黒い雑木林との間に消える。低い垣のわきを通り越すと、稍々広い路へ出る。この路を十文字に突切って、広い軒の下をくぐってゆくと浜へ出る。　　「涼しき土地」より

【絵はがき】　久之浜全景、手前は大久川
（大正時代）

【絵はがき】　松柏館
（明治時代末期）

湯本

宿の俥に迎えられて松柏館に投ず、近いころの大火事に、メヌキの場所は殆んど焼けて、旅館では湯本ホテル、松柏館の二軒が焼残ったばかりである。旅舎には温泉が引いて、湯槽が建ててある、泉質はアルカリ性にして、例の如く効能書には四百四病の名が列ねてある。　　「涼しき土地」より

勿来関

坂を上りきると、懸崖俄かにつきて紫の山と白い雲が、遠き彼方に現われた。路の左右は深い谷で、左手から森をこえて海が見える。昔此所が唯一の通路であったころは要碍の地であったに相違ない。

「涼しき土地」より

【絵はがき】勿来関上から海岸方面を見る
（大正時代）

大正時代

竹久夢二　大正時代略年表

大正	2（1913）	29 歳	11/5	絵入小唄集『どんたく』（実業之日本社）出版。「宵待草」が現在の詩形で発表される。
			12/1	詩・画集『昼夜帯』（洛陽堂）出版。
	3（1914）	30 歳	4/10	画集『草画』（岡村書店）出版。
			10/1	日本橋区（現 東京都中央区）に「港屋絵草紙店」開店。たまきを店主とし、夢二がデザインした商品を並べた。
			10/21	画集『縮刷 夢二画集』（洛陽堂）出版。
	4（1915）	31 歳	1/20	詩文集『草の実』（実業之日本社）出版。
			4/1	雑誌『新少女』（婦人之友社）を創刊。編集局絵画主任となる。
			5 月	前年、港屋絵草紙店で出会った笠井彦乃と結ばれる。
			9/10	絵入小唄集『三味線草』（新潮社）出版。
			12/20	歌集『小夜曲』（新潮社）出版。

詩・画集『昼夜帯』
大正 2（1913）年 12 月
［初版］

大正	5（1916）	32 歳	2 月 下旬	三男 草一生まれる。戸籍上は 3/25 生。
			3/5	童謡集『ねむの木』（実業之日本社）出版。
			4/18	セノオ楽譜「お江戸日本橋」（セノオ音楽出版社）発行。以後、多くのセノオ楽譜の表紙の装幀をする。
			8/22	詩文集『夜の露台』（千章館）出版。
			11 月	京都へ転居する。
			12/13	絵入歌集『幕笛』（三陽堂）出版。
	6（1917）	33 歳	4 月	不二彦と共に、京都市高台寺南門鳥居わきに転居。後に、彦乃も同居する。
			4/15	絵入小唄集『春の鳥』（雲泉堂）出版。
	7（1918）	34 歳	8～9 月	九州旅行。彦乃、旅先で倒れて現地の医院に入院。後に、彦乃の父が京都の病院に転院させる。
			9 月	セノオ楽譜「宵待草」（多忠亮 作曲、セノオ音楽出版社）出版。
			11 月	夢二、東京に戻り、後に「菊富士ホテル」に住む。
			年末	彦乃、東京の病院に入院。
	8（1919）	35 歳	2/10	歌集『山へよする』（新潮社）出版。
			3/10	詩選集『露地の細道』（春陽堂）出版。
			春頃	お葉（戸籍名 佐々木カ子ヨ）夢二のモデルとなる。
			7/13	童謡集『歌時計』（春陽堂）出版。
			8/10	詩集『夢のふるさと』（新潮社）出版。
			10/31	詩集『民謡 たそやあんど』（玄文社）出版。

詩文集『夜の露台』
大正 5（1916）年 8 月
［初版］

詩集
『民謡 たそやあんど』
大正 8（1919）年 10 月
［初版］

山村暮鳥 大正時代略年表

大正	1（1912）	28 歳	9/19	平町田町（現 いわき市平字田町）の日本聖公会平講義所に転任。
	2（1913）	29 歳	5/13	詩集『三人の処女』（新声社）出版。
			6/17	教父 土田三秀の長女 冨士と結婚し、土田家の養嗣子となる。
			9/2	平町田町から平町掻槌小路（現 いわき市平字掻槌小路）に、教会とともに移転。
			11 月	「新詩研究社」を創設。長詩小曲の通信教授を行う。
	3（1914）	30 歳	5/1	雑誌『風景』（新詩研究社編、清光堂発行）創刊。
			6 月	室生犀星、萩原朔太郎と詩・宗教・音楽の研究を目的とした「人魚詩社」を設立。
			6/18	長女 玲子生まれる。
	4（1915）	31 歳	3/7	雑誌『卓上噴水』（人魚詩社）創刊。
			11/9	長男 聖一郎生まれる。12 日、死去。
			12/10	詩集『聖三稜玻璃』（にんぎょ詩社）出版。
	5（1916）	32 歳	4/10	雑誌『LE・PRISME』（S・P・B 詩社）創刊。
	6（1917）	33 歳	9/10	随筆集『小さな穀倉より』（白日社　感情詩社）出版。
			9 月	結核を患う。

詩集『聖三稜玻璃』
大正 4（1915）年 12 月
［初版］

大正 7（1918）	34 歳	1 月	水戸ステパノ教会（茨城県）に転任。
		9/2	二女 千草生まれる。
		9 月	翻訳『ドストエフスキー書簡集』（新潮社）出版。
		9/28	朝、大喀血。
		10/11	雑誌『苦悩者』（黎明会）創刊。
		11/15	詩集『風は草木にささやいた』（白日社）出版。
		12/2	静養のため千葉県北条町に転居。
8（1919）	35 歳	1 月	温泉で静養。
		5 月中旬	北条町を引き上げ上京。
		6 月初旬	小林楼（茨城県大洗町）に下宿。 妻子は、東京の土田三秀（妻 冨士の父）と同居。
		6 月	日本聖公会伝道師休職。
		7 月	妻子を東京から呼び寄せて、茨城県大貫町に仮住まいする。

詩集
『風は草木にささやいた』
大正 7（1918）年 11 月
［初版］

暮鳥といわき

山村暮鳥といわき地域との関わりは、大正元（1912）年 9 月に、山村が日本聖公会平講義所（現いわき市平字田町）に転任になったことに始まります。この転任は、前任の山崎馨（聖三一神学校同級生）が渡米したことによるものでした。

暮鳥は、大正 7（1918）年 1 月に、水戸ステパノ教会に転任になるまでの約 5 年間をいわきで過ごしています。その間、文学を志す青年たちと交流し、大きな影響を与えました。

その中には、後に晩年の暮鳥を経済的に保護するための「鉄の靴会」を立ち上げた花岡謙二や、同会の発起人の一人となった三野混沌（みのこんとん）がいました。

花岡謙二
明治 20（1887）年 2 月 9 日―昭和 43（1968）年 5 月 7 日

現 東京都千代田区に生まれる。大正 3（1914）年、現いわき市平に移り住み、暮鳥の影響を受けて詩作を始める。

三野混沌
明治 27（1894）3 月 20 日―昭和 45（1970）年 4 月 10 日

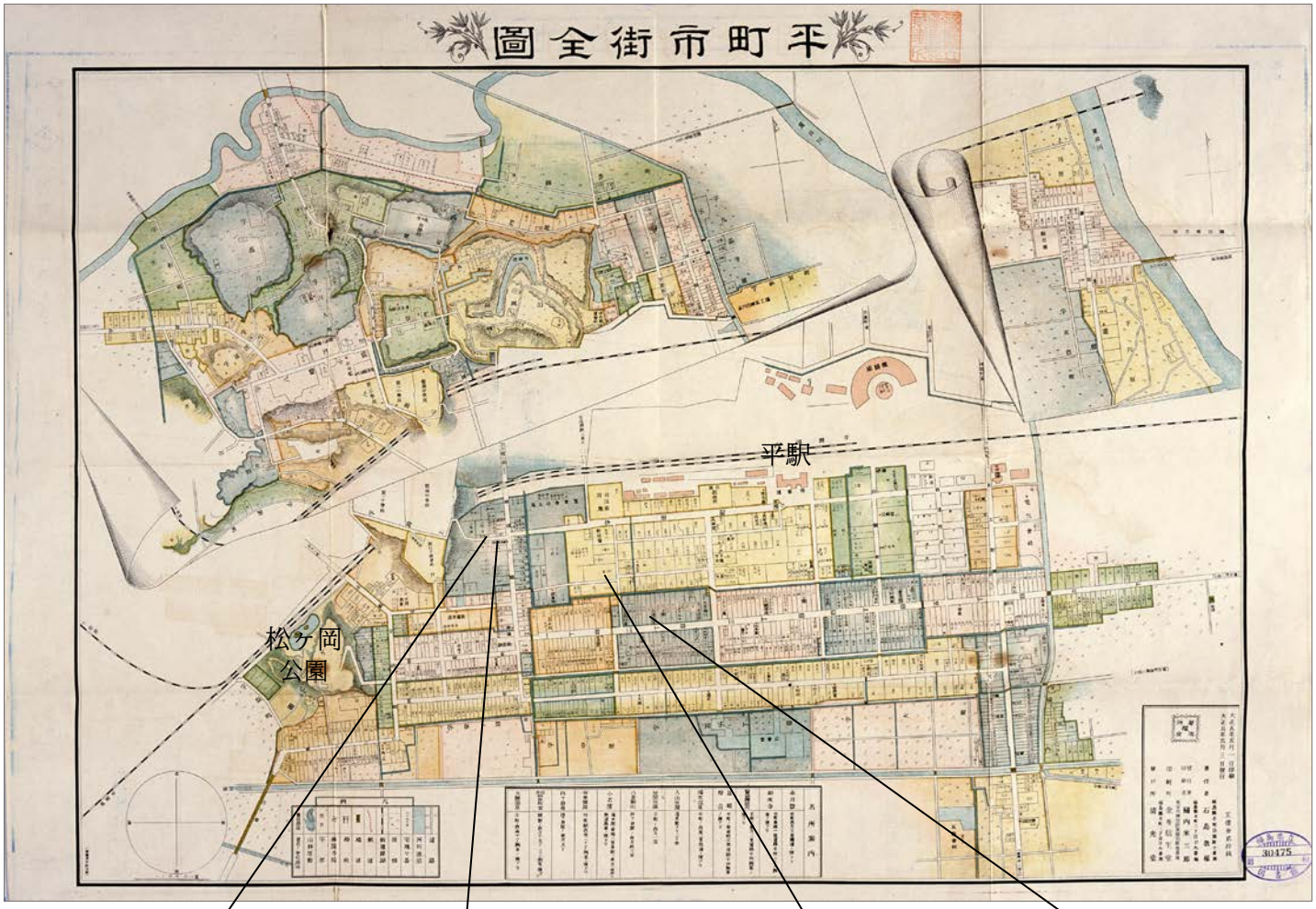
本名 吉野義也。現 いわき市平下平窪に生まれる。開墾生活のかたわら、詩作を行う。妻は、作家 吉野せい。

【絵はがき】松ヶ岡公園から俯瞰する
平の街並み（大正時代初期）

【絵はがき】 平駅前の現 並木通り
（大正初期）

【絵はがき】 平駅舎と市街（明治 44 年）

「平町市街全図」 清光堂 発行　大正 5（1916）年 5 月　　福島県立図書館 所蔵



日本聖公会平講義所
移転後

清光堂書店分店
山村暮鳥と三野混沌が
出会った

日本聖公会平講義所
山村暮鳥赴任当時

清光堂書店本店
雑誌『風景』を出版

大正～晩年

山村暮鳥 大正～晩年略年表

大正			
9（1920）	36 歳	1/16	三野混沌の招きで、菊竹山（いわき市好間町）に一家で移住。
		1/22	暮鳥が結核を患っているため、麓の住民に下山を迫られる。
		1/27	小林楼（茨城県大洗町）にもどり、磯浜明神町鬼坊裏別荘に転居。
		2 月	吐血に悩まされる。
		5 月	暮鳥の経済的保護を目的とする「鉄の靴会」発足。
		5/29	「鉄の靴会」からの送金を受けとる。
		6 月	日本聖公会の俸給止まる。
		7/30	「鉄の靴会」からの送金を受けとる。
		8/23	童話集『ちるちる・みちる』（洛陽堂）出版。
		8/30	「鉄の靴会」からの送金を受けとる。

童話集
『ちるちる・みちる』
大正 9（1920）年 8 月
［初版］

大正	10（1921）	37 歳	1/1	「鉄の靴会」からの送金を受けとる。
			5/25	詩集『梢の巣にて』（叢文閣）出版。
			7/28	詩選集『穀粒』（隆文館）出版。
	11（1922）	38 歳	3/20	小説『十字架』（聖書文学会）出版。
			5/30	童謡童話集『万物の世界』（真珠書房）出版。
			11 月	童話『葦舟の児』（文翫堂）出版。
			12/10	童話『少年行』（創文社）出版。
			12/15	童話集『お菓子の城』（文星閣）出版。
	12（1923）	39 歳	1/10	長編童話『鉄の靴』（内外出版）出版。
			9 月	雑誌『星のひかり』（星のひかり社）9 月号、「山村暮鳥詩集」として出版。表紙画は竹久夢二が担当した。
	13（1924）	40 歳	9/20	翻訳『ドストエフスキー』（イデア書院）出版。
			10 月	童話『聖フランシス』（あをぞら社）出版。
			12/8	病状が悪化し、意識不明のまま死去。

長編童話『鉄の靴』
大正 12（1923）年 1 月
［初版］

雑誌『星のひかり』九月号
山村暮鳥詩集
大正 12（1923）年 9 月

竹久夢二 大正～晩年略年表

大正	9（1920）	36 歳	1/16	彦乃、死去。
	10（1921）	37 歳	6～7 月頃	東京府豊多摩郡渋谷町（現 東京都渋谷区）にお葉と世帯を持つ。
			7/25	詩・画集『青い小径』（尚文堂書店）出版。
			8～11 月	福島県内各地を長期旅行。湯本温泉にも宿泊。
	11（1922）	38 歳	12/30	童謡選集『あやとりかけとり』（春陽堂）出版。
	12（1923）	39 歳	1/15	クレヨン練習帖『夢二画手本』1～4（岡村書店）出版。
			9/1	関東大震災発生。震災被害により、恩地孝四郎らと企画した「どんたく図案社」を断念する。
			9 月～	夢二、震災被害のスケッチをする。
			12/21	絵本『どんたく絵本 1』（金子書店）出版。
			12/23	絵本『どんたく絵本 2』（金子書店）出版。
	13（1924）	40 歳	2/20	絵本『どんたく絵本 3』（文興院）出版。
			9/10	詩文集『恋愛秘語』（文興院）出版。
			12/28	東京府荏原郡松沢村（現 東京都世田谷区）に、自分の設計したアトリエ付新居「少年山荘」完成。お葉・虹之助・不二彦と住む。
	14（1925）	41 歳	5 月	お葉と別れる。
			10 月	雑誌『若草』（宝文館）創刊。以降、多くの表紙画等を手掛ける。
昭和	15（昭和 1・1926）	42 歳	12/15	童話集『童話 春』・童謡集『童謡 凧』（共に、研究社）出版。

童謡集『童謡 凧』
大正 15（1926）年 12 月
［初版］

昭和	2（1927）	43 歳	1/15	詩文・画集『夢二抒情画選集』上巻（宝文館）出版。
			5/2～	『都新聞』に自伝絵画小説「出帆」連載。全 134 回。
			5/15	詩文・画集『夢二抒情画選集』下巻（宝文館）出版。
	3（1928）	44 歳	1/1	詩文集『露台薄暮』・詩文集『春のおくりもの』（共に、春陽堂）出版。
	6（1931）	47 歳	5/7	横浜港より渡米。その後、ヨーロッパ各地をまわる。
	8（1933）	49 歳	9/18	ヨーロッパより帰国。
			10～11 月	台湾を訪れる。
	9（1934）	50 歳	1/19	富士見高原療養所（現 長野県諏訪郡富士見町）の特別病棟に入院。
			5～7 月	ヘルペスのため、右手の自由を失う。
			9/1	死去。

詩文集『露台薄暮』
昭和 3（1928）年 1 月
［初版］

その後

山村暮鳥は大正 13（1924）年、竹久夢二は昭和 9（1934）年に亡くなりましたが、その後も、二人の残した作品が出版されています。

山村暮鳥

詩集『雲』
イデア書院 発行
大正 14（1925）年 1 月
［初版］

詩集『土の精神』
素人社書屋 発行
昭和 4（1929）年 2 月
［初版］

竹久夢二

夢二 自伝絵画小説
『出帆』上・中・下巻
夢二の会 編　　アオイ書房 発行
昭和 15（1940）年 3 月［初版］

歌集『宵待草』
臼井書房 発行
昭和 22（1947）年 10 月
［初版］

山村暮鳥の詩碑

山村暮鳥の詩碑は、「山村暮鳥の詩碑を建てる会」によって、いわき市文化センターに建立されました。会長は、三猿文庫主 諸橋元三郎氏が務めていました。昭和 59（1984）年 4 月に建立、同年 5 月 3 日に除幕式が行われています。

詩碑には、いわき市川前産の黒御影石が使用され、「おういい雲よ」ではじまる暮鳥の詩が刻まれました。

山村暮鳥 詩碑（いわき総合図書館撮影）

参考文献

三猿文庫展－図録	いわき市立草野心平記念文学館 // 編	2001	K/090/ｻ
諸橋元三郎－その人間と周辺	斎藤伊知郎 // 編	1979	K/289/ﾓﾛ
山村暮鳥展－磐城平と暮鳥	いわき市立草野心平記念文学館 // 編	2005	K/911.5/ﾔﾏ
山村暮鳥といわきの大正時代展	山村暮鳥の詩碑を建てる会 // 編	1984	K/910.2/ﾔﾏ
山村暮鳥全集 第 1～4 巻	山村暮鳥 // 著	1989-1990	K/918/ﾔﾏ-1～4
山村暮鳥研究	和田義昭 // 著	1968	K/911.5/ﾜﾀﾞ
山村暮鳥と磐城平	佐藤久弥 // 著	1992	K/910.2/ｻﾄ
山村暮鳥年譜考	菊地キヨ子 // 著	2001	K/911.5/ﾔﾏ
6 号線 第 18 号	佐藤久弥 // 編	1983	K/910.5/ﾛｸ-18
6 号線 第 19 号	佐藤久弥 // 編	1984	K/910.5/ﾛｸ-19
山村暮鳥の文学	堀江信男 // 著	1994	K/910.2/ﾎﾘ
地域の時代へ	里見庫男 // 著	2000	K/914.6/ｻﾄ
暮鳥と混沌	吉野せい // 著	1975	K/911.5/ﾖｼ
生誕百年記念写真集 雲と愛の詩人	中山克巳 // 編	1984	K/910.2/ﾔﾏ
別冊太陽 竹久夢二	平凡社 // 刊	1977	721.9/ﾀ
別冊太陽 竹久夢二の世界 －描いて、旅して、恋をして	平凡社 // 刊	2014	726.5/ﾀ
竹久夢二文学館 1～9・別巻	竹久夢二 //［著］ 万田務 // 監修	1993	918.6/ﾀｹ-1～10
竹久夢二展 －下関市立美術館所蔵作品を中心に	竹久夢二 //［画］ いわき市立美術館 // 編	1985	K/708/ﾀ
夢二と福島	玄葉与光 // 編著	1988	K/726/ｹﾞ
夢二－ふくしまの夢二紀行	内海久二 // 著	1991	K/726/ﾀ
竹久夢二名品 100 選－夢二郷土美術館所蔵	竹久夢二 //［画］ 古川文子 // 編	2007	726.5/ﾀ
竹久夢二の世界－大正ロマンの抒情画家	竹久夢二 //［画］ 夢二郷土美術館 // 監修	2000	726.5/ﾀ
もっと知りたい竹久夢二	小川晶子 // 著	2009	726.5/ﾀ
竹久夢二－大正モダン・デザインブック	石川桂子 // 編	2003	726.5/ﾀ
夢二美術館 1～5	竹久夢二 // 著	1988	720.8/ﾀ

令和 6（2024）年 7 月 11 日 発行

■編集・発行　いわき市立いわき総合図書館

令和 6 年度　前期常設展

「生誕 140 年記念 三猿文庫の中の山村暮鳥と竹久夢二」

■会期　令和 6（2024）年 7 月 2 日（火）― 10 月 27 日（日）

■会場　いわき総合図書館 5 階 地域資料展示コーナー